



大原中だより

校 訓 「歴史を拓く」

学校教育目標 はつらつとした生徒、地域に輝く学校

ホームページ : <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397

FAX 048-835-1357

第 3 号

令和 5 年 6 月 1 日

「やわらかいところ」

校長 岡村 洋彦

新緑と爽やかな風の中で過ごした5月が過ぎ、初夏の香りが漂う頃となりました。

これから梅雨に入り、蒸し暑い日が続き疲れやすくなります。この時期を元気に乗り越え、学習に集中するためには、心も身体もすっきりとしていることが大切です。ご家庭でも睡眠や朝食をしっかりととり、体調を整えて登校できますようお願いいたします。

今月は、生徒総会、市学校総合体育会や3年生修学旅行、2年生未来くるワーク体験など多くの行事があります。生徒たちは、それぞれの目標に向かって日々努力をしているところです。

セトモノとセトモノ

ぶっかりっこするとすぐこわれちゃう
どっちなやわらかければだいじょうぶ
やわらかいところをもちましよう
そういうわたしはいつもセトモノ



これは、相田みつをさんの詩で、数年前CM（AC ジャパン）にも使われていました。

見ず知らずの人同士が集まる公共の場では、さまざまな「イライラ」や「ストレス」の芽があります。その中でよりよい人間関係を結ぶために必要な気持ちの持ち方を改めて考えさせられる詩です。この詩を引用したキャンペーン CM の最後は、「おおらかな気持ちでいることも、りっぱな公共心です。」と締めくくっていました。

この CM の設定は人の行き交う横断歩道上でしたが、家や学校など様々な場面に置き換えて考えることもできます。人は一人では生きていけません。集団の中でこそ助け合い、認め合い、学び合い、成長できますが、逆にストレスがたまることもあります。家族の中、学級の中、地域社会等様々な集団の中で、人間は学び成長するものです。その時々によって、同じ心であっても、この詩で言う「セトモノ」のようになり、「やわらかいところ」になったりもします。

“自分の中にあるセトモノの心を柔らかくするように少し頑張ってみよう”、“もっと心に余裕をもたなくてはいけない”、という気持ちに自然となっていける詩であると思います。周囲の人々への感謝や自身の反省、それに、他人を責める前に自分をやわらかくする努力、柔軟な考え方や、柔軟にものをとらえることの大切さ等、これらは全て人間が成長し続けるための「大切な要素」だと感じます。

一人ひとりの生徒に目を向け、豊かな望ましい人間関係が築けるよう、教職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

これからも保護者・地域の皆様方にご協力をいただき、様々な教育活動を通して、子どもたちに「やわらかいところ」を育てていきたいと考えていますので、よろしくをお願いいたします。

